



# いずみ

No.92

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

## 自作自選 62



《封印が切られた函》

泉 修次

(2 ページに「作者の言葉」)

主に木を素材として、立体作品を制作してきました。もともと平面から立体造形に入ったので、フォルムと質感を意識した制作でした。彫刻の質量が持つ存在感を表現のベースに出来ないかと思うようになり、石彫など経験のない私でもいじれるセメントを素材として使う事に気づき、何年か前からセメントを素材とした作品制作を試みています。封が切られ封じ込められていた何かが世の中に放たれてしまった……。この作品は、レタラスペースでの「北海道のアーティスト 50 人-夏展テーマ『はこ』」の時の作品です。(札幌市在住)

タイトル : 封印が切られた函  
制作年 : 2024 年  
素 材 : モルタルセメント、アクリル絵の具、紙、他  
サ イ ズ : H 150×W140×D 140 mm  
作者蔵

## 「生き恥を晒す」

学芸員 梅村 尚幸

昨年から続けてきた山内壮夫の調査研究の成果が今まさに世に出ようとしています。6 月 14 日から、本郷新記念札幌彫刻美術館で「没後 50 年 山内壮夫展」が開幕し、それと同時に展覧会図録として『山内壮夫 共鳴する彫刻』が刊行されるのです。図録といっても資料集兼論文集のような形式となっており、今までにない山内壮夫のバイブル的なものを目指し、外部の研究者からの寄稿も含めて多角的に山内芸術を検証しようとする内容です。調査研究の顛末記のようなものは次号あたりに掲載させていただければと思います。

作家や作品の情報を収集し、まとめ、検証し、発信する…という地道な仕事は、学芸員の基本的な仕事だと個人的には考えているのですが、様々な役割を背負った昨今の美術館学芸員は、この仕事をつい後回しにしてしまいがちです。そうこうしている間に色々な資料が散逸し、「この作品は一体何なのか」がどんどん忘れられていきます。山内壮夫はその意味では危機的な状況にあったわけで、作品の再発見に少しでも貢献できるかもしれないことを喜ばしく思っています。

図録の校正も大詰めです。どんなに根気強くチェックしても、印刷後に誤植が発見されることは多々あります。まさに生き恥を晒す思いです。これは彫刻家たちが、モニュメントを設置した後に作品の出来に後悔することが多々あったことに通じるものがあるでしょう。



## 台座と距離

東山早苗

『石狩 - 無事の民』を見て以来、野外彫刻に興味を持つようになった。野外彫刻を見るのは楽しい。駅に降り立ち、街を歩けばどこにでもある。美術館のように閉じた空間ではなく、開かれた空間を自由に無料で見ることができる。胸像であればその人のことを想像するし、抽象的なモチーフであれば遊び心が湧いてきて、設置された環境と作品の調和に目を向けている。野外彫刻をもっと知りたいと衝動的に社会人美大生になって4年目、そろそろ卒業研究に取り掛かる時期である。

研究対象を見るために街や公園へ向かい、彫刻の前で立ち止まる。正面から見る、見上げる、ぐるりと一周する、見上げる、たまに見下ろす、しゃがむ、見上げる、写真を撮って、メモを残す。ここ1年くらい繰り返している行為である。とにかく何度も何度も見上げている。身長154センチの私には野外彫刻は大きすぎて、見上げるばかりだ。野外彫刻そのものが大きいこともあるが、それはたいてい「台座」のせいだと思っている。

彫刻は台座の上に設置されていることが多い。台座があると見栄えがよい。威厳が増し、美しさが際立つ。鑑賞してほしい角度を固定できる。作品設置の経緯や作者を記すこともできる。彫刻設置時の安定性、水や湿気などの劣化原因から保護すること

にもつながる。ただ、作品と私の距離は、台座の分だけ遠いのだ。

台座の高さによって、作品へのまなざしは変わる。例えば、大通公園の『湖風』の台座がなかったらどうだろう。公園の木々の間に腕組みをしている人が立っている。薄着で表情に変化のない男性がこちらを見つめていたら、ぞっとする。彫刻作品とは思われない可能性もありそうだ。中島公園の『猫とハーモニカ』の台座が高かったらどうだろう。悪戯をされることはなかったかもしれないが、あの親しみある形や表情はとても遠い存在に感じるだろう。芝生に落ちる作品の影を踏みながら通りすぎるかもしれない。

台座は彫刻作品の一部である。高い台座には、崇高さや尊敬などが象られ、作品の存在を高める。一方、台座のない作品には公共空間との融合や参加型アートを目指し、見る人と作品との対話を生もうとしているのではないか。

台座の役割や変遷を理解することで野外彫刻への新たな気付きを得るだろう。卒業研究のテーマに「台座」を組み入れることで、研究の幅は広がっていく。台座の上に設置された彫刻と私との物理的な距離は変わらなくとも、作品への理解は深まり、視点は近づいていくだろう。

(福岡県出身 東京都在住)

## 顧問・國松明日香先生を悼む

当会顧問であり、会報「いずみ」の創刊号(2002年)以来、不変の題字を揮毫していただいた國松明日香さんが3月6日、亡くなりました。北海道を代表する彫刻家であり、道内各地に数多くの野外彫刻を制作する一方、札幌市立高専で後進の指導や、南区のまちづくりなど、幅広く活躍された國松先生。柔和な笑顔を思い出し、悲しい思いを抱く方も多いことでしょう。ゆかりの方々に追悼の気持ちをつづっていただきました。

### アトリエの父

美術家

国松希根太

祖父の家に行けば油絵具の匂い、父のアトリエに行けば鉄粉の独特な匂いがする環境で育った。それは自分にとってごく自然なことだった。

父は自分が幼少の頃には札幌の自宅のアトリエで、小学校3、4年生の二年間は白老町の飛生アートコミュニティで、その後、札幌に戻った後は、自宅のアトリエか勤務先の札幌市立高専の金属加工室で制作をしていた。あまりアトリエに覗きにいくようなことはしなかったと思うが、母に晩ご飯だからお父さんと呼んできてと言われ、アトリエに向かうと扉の外にまでグラインダーで金属を削る音が漏れていて、扉を開けると音は更に大きくなり、自分が呼びに来ていることに気が付かずに、しばらく作業に没頭している姿が今でも記憶に残っている。大きな声を出したり手を振ったりすることで、ようやく自分に気が付くと作業をやめ、彫刻家から父の顔に切り替わった。その頃の自分は美術の道に進むとは考えてもいなかったが、今は時間を忘れて制作に没頭することがどれほど大切かを身をもって感じている。

### 約束は…

陶芸家

坂田真理子

雪解けが進む3月8日。祭壇に飾られた國松明日香先生の遺影は、沢山のお花に囲まれいつもと変わらず柔らかい笑顔で参列者に微笑んでいた。2021年、札幌市南区芸術祭プロジェクトの実行委員長に就任され、2022年、南区芸術祭が開催となり、その後も火を消さぬようにと企画を考えられ南区のアートなまちづくりには欠かせない心強い存在であり誇りでした。

北海道を代表する美術家である先生が、アート企画について突然私のギャラリーに立ち寄り、壁に飾ってある絵を指差しながら、「ルオーだァー」と少年のようにはいやいで「よくあの時代にルオーの絵が認められたよねェー。モンマルトルの丘に、有名になる前の貧乏画家たちが集まり…」もう誰も話を止める事は出来ません。笑って楽しい時を共有しました。又昨年の師走には、南区の昭和の忘れ物のような風情ある佇まいのカフェミンナにて、坂田真理子は作品展ペルソナ、國松先生は講演を、同時に開催する事になり、当日、沢山のお客様が立ち見でも参加して下さりました。先生は、プロジェクトで作品を見せながら「僕はズーッと劣等感の塊だった」とお話の途中何度も言われ、講演終了後「僕は未だ話し足りないよ」と言われたので「是非来年も続きのお話と秘密のマジックをお願いしますね。約束ですよ」と…。

## 國松明日香先生のこと

吉村 卓也

株式会社メディアグレス代表、元東海大学国際文化学部デザイン文化学科教授

國松明日香先生に初めてお目にかかったのは、私が東海大学に勤めていた頃、今から 15 年ほど前のことのように思われる。

当時、旭川キャンパスにあった芸術工学部で、國松先生には非常勤でデッサンの授業を担当していただいていた。旭川キャンパスを閉じ、札幌キャンパスにデザイン部門を移転することになったとき、國松先生にはぜひ引き続き非常勤をお願いしたく、大学との関係を切らないように担当の先生をお願いした記憶がある。ただ、その頃はまだ面識がなかった。

それ以前にも、國松先生の作品には出会っていた。芸術の森の野外美術館に展示されている鉄の彫刻『日暮れ時の街 No. 9』がそれだ。それ以来、私の頭の中で國松先生といえば「鉄の人」のイメージなのだった。お父様の國松登氏の油絵とは違うのだな、と、思った。

南区に在住しているので、石山緑地を作った彫刻家集団、CINQ（サンク）のお一人だったことも縁である。東海大学の学生のデザインの授業のフィールドワークで、石山緑地を見学に行くことになった。非常勤をお願いしているご縁で、図々しくも実際に現地で学生に話をしていただけないかと頼んで快く引き受けて頂き、緑地でお会いしたのが初対面だったような気がする。

作品から勝手に「鉄の人」をイメージしていたので、最初に電話でお話した時の穏やかな語り口、実際にお会いしてもその柔らかな物腰や、学生にもとても丁寧に接していただいた事が強く印象に残っている。

2022 年、南区区制 50 周年の事業として、南区をアートの町として位置付け、アートフェスティバルを行う計画が持ち上がったとき、真っ先に頭に浮かんだのが國松先生だった。

南区にある市立高専（現札幌市立大学）で教鞭を取っていた事、石山緑地との関わり、そしてアーティストインレジデンスという言葉が一般的になる以前から、白老の飛生地区に住みながら地域での活動を行っておられたこと—それが今の飛生芸術祭へとつながっている—など、実行委員長としてこれ以上ふさわしい人はいないと思い、お願いにあがった。

年齢のことを気にしながら、「僕でいいのかなあ」と、ふんわりと引き受けてくださったことが思い出される。

実際に一緒に仕事をさせていただき、その柔らかな雰囲気とは裏腹に、芸術や表現に対するこだわりや思いには、「鉄の意志」のようなものを感じた。

エドウィン・ダン記念館でのオープニングやコンサート、展示作品の選定等、「こんな作品を持ってきたい」、「こんな音楽をやりたい」と、アイデアは次から次へと出て来る。全ては実現しなかったけれど、フィナーレの石山緑地のステージでボレロをやりたい、というのは國松先生の強い希望だった。ボレロは日が暮れてからの最後のプログラム。ここでまた先生は「松明（たいまつ）を焚くこと」と、ダンサーのシルエットを緑地の軟石の壁に大きく映し出すことを強く希望した。会場レイアウトでは、松明の本数や配置、照明の位置にも徹底的にこだわり、ふだんの温厚な先生とは一味違う、妥協しない「厳しさ」を感じた。

ボレロの演奏は南区在住のダンサー・菊澤好紀さんが、札幌管楽ソリストと南区ゆかりの音楽家達の生演奏に合わせて舞い、芸術祭の最後を締めくくるにふさわしい感動的なものとなった。國松先生のあのこだわりがなかったら、あそこまでのものにはなっていなかっただろう。

南区のアートプロジェクトはその後も続き、毎年いろいろな企画を小出しにしていっていった。それぞれに、國松先生の適確な導きがあった。今後のアートフェスティバルの継続について、円山の六花亭喫茶室でお会いして策を練ったのが、2人でじっくり語り合った最後となった。

ある仕事で、國松先生のかつての教え子のアーティストの方にお会いした。國松先生にさっそく、「かつての教え子の方に会いましたよ」とメールを打ったが、その返信がなかった。いつも律儀に返事をくれるので「おや？」と思った。

そこに突然の訃報である。にわかには信じがたく、何かの間違いでないかと思った。こんなことも、あんなことも、もっと聞いておけばよかった、もっと教えてもらえばよかった、と悔やまれてならない。

南区アートフェスティバルで一緒に仕事ができたと、芸術家の「胆力」を身近に感じる事ができたのは、私にとって宝となった。石山緑地のそばを通るたびに思い出す。

國松先生、どうぞ安らかにお休みください。



## 2025 年度彫刻美術館友の会 総会

5月18日 北大学術交流会館

札幌彫刻美術館友の会の2025年度総会が5月18日、北海道大学の学術交流会館（北区北8西5）で開かれ、新年度の活動計画案など議案5件を原案通り可決しました。

高橋大作会長が「今年は山内壮夫の回顧展が開かれる。当会は著作権を委任されていることもあり、展覧会を楽しみにしている」とあいさつ。議長に猪俣岩生さんを選出し、2024年度活動報告、同決算・監査報告、2025年度活動計画案、同予算案、役員改選の議案5件を審議した。

24年度活動報告では、前年度に引き続き、老朽・危険度の高い札幌市内の彫刻の点検調査（106体をリストアップ）をはじめ、延べ11回、160人が参加した彫刻清掃、インターネットの「北海道デジタル彫刻美術館」の学習会、札幌市生涯学習センターちえりあなどの要請を受け大通公園や中島公園で彫刻ガイドを実施したことなどの報告があった。また、24年度会計決算報告では収支決算額1,447,016円、繰越額688,475円の報告があり、園部亜佐子さんが監査報告を行った。

新年度活動計画には「北海道デジタル彫刻美術館」の作品解説・データの拡充、年9回の野外彫刻清掃活動などが盛り込まれた。また、収支1,158,475円とする新年度予算案も含め、いずれも原案通り可決、承認された。出席者からは、昨年は中止となったバスツアーの復活を望む声や、山内壮夫作で、「猫とハーモニカ」という、そぐわない題がついている中島公園の彫刻作品の改題に向けて動きを起こしては一という意見が出た。

2年に1度の役員改選も行われ、右の表の通り選ばれた。顧問については、原子修、國松明日香の両氏が亡くなったことを受け後任に、札幌芸術の森美術館長などを歴任した佐藤友哉氏に委嘱することになった。

| 彫刻美術館友の会役員<br>(2025年4月～27年3月) |       |
|-------------------------------|-------|
| 顧問                            | 佐藤友哉  |
| 名誉会長                          | 橋本信夫  |
| 会長                            | 高橋大作  |
| 副会長                           | 大内 和  |
| 事務局                           | 奥井登代  |
|                               | 細川房子  |
|                               | 藤倉まゆみ |
| 会計                            | 岩崎恵美子 |
|                               | 園部亜佐子 |
| 役員                            | 高橋淑子  |
|                               | 小笠原悦子 |
|                               | 松原安男  |
|                               | 井尻哲男  |
|                               | 笹山恵利  |
|                               | 梁井 朗  |
| 会計監査                          | 猪俣岩生  |
|                               | 吉田千代  |

### 特別講演会「野外彫刻のデータを読む～アーカイヴの愉しみ」

引き続き、昨年6月に「北海道芸術文化アーカイヴセンター(ACA)」を設立した古家昌伸代表が講演した。

古家さんは、彫刻美術館友の会が開設している「北海道デジタル彫刻美術館」のデータをもとに、札幌市北区の野外彫刻を見に行き、さらに独自に富山県の業者に電話するなどの取材で明らかにした事実を紹介。また、札幌コンサートホールKitara 開館の翌日に作家渡辺淳一さんが近くで講演した事例などを挙げて、一つの分野だけでなく他の分野にも目配りする楽しさに触れ「自分たちの活動が50年後ぐらいに『面白いよね』と言ってもらえたら」と話していた。



## 札幌のイエス像 コンクリート製、台座 切断して移設



札幌市内の私立の高校の校庭にイエス像があり、それらを道内のある施設に移転することになった。この像は地上部分の高さ1.1mの台座（横1m、奥行き1m）の上に、1.9mの像が載っている。

凍結深度0.6mの地域なので地下0.6mぐらいまでコンクリートが打ってある。当初は地上ギリギリの位置で水平に切断し、像をクレーンでトラックに積載し、像の周りを板で囲み、運搬中の振動などで像の弱いところ、特に両腕が折れるのを防ぐために、発泡ウレタンを充填し、目的地まで立てたまま運搬することを考えたが、道路交通法の規定で3.8mまでの高さ制限があることから、台座の地上0.6mの位置で切断することにした。切断はワイヤ・ソーという固い金属でできたケーブル状のものを水平に回転させてコンクリートや中に入っている鉄筋を同時に切断するものである。

北海道内において芸術作品の彫刻像を、台座の部分とはいえ、ワイヤ・ソーで切断という事例はおそらく最初だと思う。受け入れ側のほうでは、地下の基礎は勿論、地上高0.6mの台座の下半分を事前にコンクリートで制作しておき、搬入した台座付きの像を直ちにその上に載せて、水平の調整をしたのち、台座の周りを15cmの厚みのコンクリートで囲むべく配筋をし、コンクリートを打設する計画である。台座は高さ1.1m、横1.3m奥行き1.3mとなる。仕上げの塗装をして引き渡しとなる。

## 山内壮夫展 没後50年 9月28日まで開催中

本郷新記念札幌彫刻美術館



札幌出身の彫刻家、山内壮夫（やまうち・たけお）の回顧展「山内壮夫—共鳴する彫刻」が6月14日から9月18日まで、本郷新記念札幌彫刻美術館で開かれる。

山内は大通西1の「希望」や、中島公園の「森の歌」など、札幌や旭川に数多くのモニュメントを設置し、新制作派協会彫刻部や全道展（全道美術協会）の創設に関わった。札幌での回顧展は初めて。作品50点以上を

展示するとともに、都市空間や建築と共鳴する山内芸術の魅力を多角的に紹介する。公式図録も2200円で発売する。

一般600(500)円、65歳以上500(400)円、高校・大学生400(300)円、中学生以下無料。

( )内は10人以上の団体料金。

関連イベントは次の通り。

●学芸員によるスライドトーク『山内壮夫入門』in サンクスデー＝6月22日(日)午前10時半～11時と午後1時半～2時。本郷新記念札幌彫刻美術館研修室。無料開放日

●梅村学芸員の日曜講話『山内壮夫入門 + 共鳴する彫刻』＝7月27日(日)午前10時半～正午。本郷新記念札幌彫刻美術館研修室。無料

●札幌おしゃべり美術部＝6月28日(土)午後1時～5時。中学生以上の学生向け鑑賞ワークショップ。定員12人(要予約)

●山内壮夫シンポジウム＝8月6日(水)午後6時半～8時、札幌文化芸術交流センターSCARTSコート(中央区北1西1 札幌市民交流プラザ)。登壇者は、藤井匡・東京造形大学教授、寺地亜衣・道立旭川美術館学芸課長、梅村尚幸・本郷新記念札幌彫刻美術館学芸員の3氏。500円。事前申し込み制で、7月11日から同館で電話受付。

## 2025年度彫刻清掃計画

|        |         |
|--------|---------|
| 5月11日  | 新渡戸記念公園 |
| 31日    | 中島公園    |
| 6月8日   | 山鼻日の出公園 |
| 22日    | 彫刻美術館   |
| 7月13日  | 大通西10   |
| 27日    | 真駒内駅    |
| 8月2日   | 中島公園    |
| 9月7日   | 大通西3    |
| 10月19日 | 彫刻美術館   |

**事務局日誌**▼3月8日＝國松顧問葬儀。会から供花(北海斎場)  
▼18日＝山内壮夫展に向け、本郷新記念札幌彫刻美術館の梅村学芸員と、橋本名誉会長、高橋会長が打ち合わせ▼26日＝会報91号発送、デジタル彫刻美術館学習会(エルプラザ)▼4月10日＝定例役員会(同)総会議案、会報91号打ち合わせなど▼18日＝手稲コミュニティセンター壁画の修復について、高橋会長が手稲区と打ち合わせ▼22日＝本年度の彫刻清掃について藤女子大と打ち合わせ▼5月8日＝定例役員会(エルプラザ)▼18日＝2025年度総会(北大学術交流会館)

**編集後記**▼この号が出る頃には始まっている山内壮夫展。旧制札幌二中出身の彫刻家4人衆のうち本郷新、佐藤忠良、本田明二に比べ展覧会が少なく、2007年の生誕100年も黙殺状態だったので、注目しています▼wordソフトに不慣れで編集作業に四苦八苦しています。レイアウトなどに新味を出せる日は遠そうです。(梁井)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.92

2025年7月1日発行

発行人 高橋 大作

編集者 梁井 朗

札幌市豊平区西岡2の13の10の3

h-art\_2005@mail.goo.ne.jp

090・2690・4015

印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」92号 目次

|                       |            |           |         |
|-----------------------|------------|-----------|---------|
| 自作自選62                | 《封印が切られた函》 | 泉 修次      | ・ ・ 表紙  |
| 宮の森の四季62              | 「生き恥を晒す」   | 梅村 尚幸     | ・ 2     |
| 風見鶏「台座と距離」            |            | 東山 早苗     | ・ ・ ・ 3 |
| 國松明日香先生を悼む            |            | ・ ・ ・ ・ ・ | 4-5     |
| 新年度総会                 |            |           | 6       |
| 友の会ニュース               |            |           | 7       |
| イエス像移設／山内壮夫展／彫刻清掃予定   |            |           |         |
| 事務局日誌／編集後記／目次／美術館行事予定 |            |           |         |
| ・ ・ ・ ・ ・ 8           |            |           |         |

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本 館

#### ■没後50年 山内壮夫展

共鳴する彫刻 開催中～9月28日

7ページをごらんください。

#### ■館長と梅村学芸員の日曜講話 彫刻編

6月15日 野外彫刻の魅力と課題／29日 本郷新

7月13日 本田明二／27日 山内壮夫

8月10日 グスタフ・ヴィーゲラン／24日 ダニ・カラヴァン

9月7日 砂澤ビッキ／21日 野外美術館こぼれ話

10月5日 秋の野外美術館解説ツアー(この回のみ札幌芸術の森野外美術館)

いずれも午前10時半～正午、研修室。無料(10月5日のみ野外美術館の入館料＝一般800円＝が必要です)

### 記念館

#### ■コレクション展 2025—2026

5月31日～来年5月24日

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目

☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<https://sapporo-chokoku.jp>